

授業概要

本演習では、グループで心理学な研究を行う事を通して、4年次の卒業研究に向けた「基礎体力」を身につけることを目指します。

春期は、心理学の論文を読むことを通じて、秋学期に行う研究のテーマを決定します。その際、ただ受け身的に読むのではなく、「もっとこの研究を面白くするにはどうしたら良いか」、「他の条件だったら結果が変わるのではないか」というように、批判的に読む力を養います。

秋期は、グループで、調査を実施する、データを分析する、論文を書くという作業を通して、心理学の論文を書くために必要な力を身に着けます。

授業計画

※受講者の人数や理解度に応じて内容は変更する可能性があります。

第1回	春期の進め方の説明	第16回	秋学期の進め方の説明
第2回	論文の探し方・選び方	第17回	研究のテーマ決定
第3回	講師によるモデル発表	第18回	
第4回	心理学研究法	第19回	調査用紙の作成
第5回	論文の輪読①	第20回	
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者は発表資料を作成して臨む ・それ以外の方は発表を受けて、自分なりの意見を述べる 	第21回	
第7回		第22回	調査の実施
第8回		第23回	
第9回	論文の輪読②	第24回	データ分析
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者は発表資料を作成して臨む ・それ以外の方は発表を受けて、自分なりの意見を述べる 	第25回	
第11回		第26回	
第12回		第27回	論文作成（方法・結果）
第13回	振り返り、グループ分け	第28回	
第14回	研究テーマの検討	第29回	論文作成（問題・考察）
第15回		第30回	

到達目標

- ・心理学の基本的な研究法の知識を身につける。
- ・心理学的な研究の進め方を理解し、行う事ができる。
- ・心理学の研究論文を作成できるようになる。

履修上の注意

授業時間外に、論文を読む、作業を進めるなどの必要があります。
 このような大変な作業についてこられる人、心理学研究に強い関心がある人を歓迎します。
 また、発表担当でない人も、授業中に積極的に議論に参加し意見を述べることを求めます。

予習・復習

春期は、発表担当者は、事前に論文を読み、発表資料を作ってくる。
 秋期は、研究の進み具合に従い、作業を進める。

評価方法

授業への参加態度（30%）、発表の様子や内容（50%）、議論における発言（20%）などを踏まえて総合的に評価する。

テキスト

教科書は特に指定せず、必要に応じて授業中に資料を配布する。

授業概要

本演習は、主に前近代史（古代～江戸時代）の分野で卒業論文のテーマを決めようと考えている学生を対象にしています。春期の間の内に、大まかなテーマを決めていただく予定です。

春期の間には、論文・史料の探し方をレクチャーするとともに、天皇をテーマに据え、関連する映像を視聴して、自分なりの意見を構築する練習を行います。そしてそれに基づき討論することで、自分の意見を適切に言語化し他者に伝える練習や、他者からの意見や質問を踏まえた練り直しの練習も行います。そのうえで、実際に学術論文講読を通して、口頭発表・質疑応答の練習を行います。

秋期は、各自の卒業論文テーマに基づき、実際にレジュメを作成して口頭報告を行う予定です。

卒業論文執筆に向けて、或いは卒業後での社会人生活に向けて、自分の考えを相手に伝える力を養いましょう。

授業計画

第1回	春期ガイダンス	第16回	秋期ガイダンス
第2回	史料の検証—郡評論争を例に一	第17回	研究報告の手法について
第3回	「天皇」は伝統的か	第18回	卒論構想報告 1回目①
第4回	皇位継承とその展開	第19回	卒論構想報告 1回目②
第5回	中世以降へ続く天皇	第20回	卒論構想報告 1回目③
第6回	皇位継承の実例①	第21回	卒論構想報告 1回目④
第7回	皇位継承の実例②	第22回	卒論構想報告 1回目⑤
第8回	皇位継承の実例③	第23回	卒論構想報告 1回目⑥
第9回	学術論文講読①	第24回	卒論構想報告 2回目①
第10回	学術論文講読②	第25回	卒論構想報告 2回目②
第11回	学術論文講読③	第26回	卒論構想報告 2回目③
第12回	学術論文講読④	第27回	卒論構想報告 2回目④
第13回	学術論文講読⑤	第28回	卒論構想報告 2回目⑤
第14回	学術論文講読⑥	第29回	卒論構想報告 2回目⑥
第15回	春期まとめ	第30回	秋期まとめ

到達目標

- ・自分の意見を適切に相手に伝えることができるようになる。
- ・他者と意見を突き合わせ、レポート、ひいては卒業論文執筆に繋がる意見構築ができるようになる。
- ・天皇の歴史・現状について具体的に理解し、今後の議論に国民の一人として参加できるようになる。

履修上の注意

インターネットからの根拠不明・曖昧な情報を鵜呑みにせず、客観的根拠に基づく意見構築を行ってください。実際を受講人数などによって、シラバスを多少変更する場合があります。

報告者は欠席・遅刻厳禁です。

予習・復習

各回の報告者は、必ず授業開始前までにレジュメを用意すること。

報告者以外も、テキストの報告に関わる部分を事前に読んでおくこと。

授業後は、質疑応答での意見や質問を踏まえてレジュメを見直し、期末レポートに繋げること。

評価方法

口頭報告・質疑応答や、期末レポートで判断する。

レポート(40%)、報告(40%)、授業態度(20%)

テキスト

適宜授業中に配布・紹介する。

授業概要

私たちは意識することなく、映画や演劇、漫画に接している。現実存在した人物、歴史的な事件を扱った作品などが大きな問題となり、裁判となった例もある。

現実生きた、あった事件を後世の私たちは享受することになるが、それは「事実」なのだろうか？私たちは「娯楽」として作品を享受しているにすぎないのではないか。

前期では基本的な二次創作作品を学び、後期では日本の新しい文化となってきた2.5次元作品を学ぶ。これは日本独自のものとして発展し、海外公演、インバウンドにも活用されている。コミックマーケットに代表されるようなオタク文化として発達したサブカルチャーは今では日本文化として確立した。日本における二次創作文化を学ぶことによって、「オリジナル」という問題にも迫っていきたい。

授業計画

第1回	歴史的人物を描くことの問題	第16回	2次元世界を2.5次元へ
第2回	歴史的な事件を描くことの問題	第17回	「テニスの王子様」が火付け役
第3回	表現とプライバシー 三島由紀夫の「宴のあと」裁判	第18回	「刀剣乱舞」へと続く道
第4回	表現とプライバシー2 「エロス+虐殺」判例	第19回	ライブビューイングの魅力
第5回	表現とプライバシー3 「石に泳ぐ魚」をめぐる	第20回	黎明期となる宝塚とマンガ原作の舞台化
第6回	大正、昭和のエログロナンセンス	第21回	「ベルサイユのばら」
第7回	江戸川乱歩とメディア	第22回	少女マンガ化「はいからさんが通る」
第8回	原作と二次創作	第23回	萩尾望都の世界「ポーの一族」
第9回	アダプテーションの差異 「屋根裏の散歩者」1映画とドラマ	第24回	東宝ミュージカル「エリザベート」
第10回	アダプテーションの差異 「屋根裏の散歩者」2マンガ	第25回	惑星ピスタチオと「弱虫ペダル」
第11回	アダプテーションの差異 「犬神家の一族」1映画	第26回	キャラクター中心に演じる、劇団新感線
第12回	アダプテーションの差異 「犬神家の一族」2ドラマとマンガ	第27回	歌舞伎「義経千本桜」から、スーパー歌舞伎「ヤマトタケル」へ
第13回	アダプテーションの差異 「源氏物語」1映画	第28回	そして「ワンピース」の歌舞伎化
第14回	アダプテーションの差異「源氏物語」 2「夕顔」「紅葉賀」「末摘花」	第29回	アメリカンコミック、グラフィックノベルのブロードウェイ舞台化
第15回	前期のまとめ	第30回	後期のまとめ

到達目標

- 日本の表象文化が過去から現在において、どのような作品を生み出してきたかを説明できる。

履修上の注意

- 授業中にノートを取り、わからなかったことについては調べてくること。
- ※進行状況により授業内容を変更する場合がある。

予習・復習

予習：授業最後に次回の予習箇所を伝える。

復習：講義内容を踏まえ、自己の興味あるテーマを探りつつ、卒業研究へつなぐレポートを書く。

評価方法

- 授業中の質問に積極的に答える
- 授業態度 20%、授業内レポート 40%、学期末レポート 40%。

テキスト

- 必要に応じ、適宜指導する。

授業概要

この専門演習では、イギリスの階級社会を特に言葉を中心に様々な側面から考察し、作品にどのような影響を与えているのかを分析していく。

春期は、ロンドンの花売り娘を主人公とした作品（映画）『マイ・フェア・レディ』におけるロンドンの労働者階級の特徴を、主に「コックニー」と呼ばれる彼らの言葉を中心に考察する。考察にあたっては、適宜、原作であるジョージ・バーナード・ショーが書いた戯曲『ピグマリオン』を参照する。

秋期は、中流階級のバンクス家でメアリー・ポピンズがナニー（乳母、教育係）として活躍するメアリー・ポピンズ関連の作品、イギリスで最も読まれている小説家ジェーン・オースティンの『高慢と偏見』や『エマ』などの階級社会をテーマにした作品を同様の観点から考察する。

授業計画

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	復習と秋期のイントロダクション
第 2 回	イギリスの階級	第 17 回	メアリー・ポピンズ：作品と背景
第 3 回	『マイ・フェア・レディ』	第 18 回	メアリー・ポピンズ：ナニーについて
第 4 回	階級と言語：概論	第 19 回	メアリー・ポピンズ：階級と言語
第 5 回	ロンドンの下町の言葉コックニー	第 20 回	卒業論文について
第 6 回	音声学者ヘンリー・スイート	第 21 回	第 1 回卒論テーマ経過発表（1）
第 7 回	[h]無しの発音：歴史的な考察	第 22 回	第 1 回卒論テーマ経過発表（2）
第 8 回	映画 第 1 幕第 1 幕～4 場の考察	第 23 回	第 1 回卒論テーマ経過発表（3）
第 9 回	映画 第 1 幕第 5 幕～11 場の考察	第 24 回	ジェーン・オースティン：作品と背景
第 10 回	階級と言語：具体例	第 25 回	J・オースティン：『エマ』
第 11 回	階級と言語：U と Non-U	第 26 回	J・オースティン：『高慢と偏見』
第 12 回	階級と言語：アメリカ英語	第 27 回	第 2 回卒論テーマ経過発表（1）
第 13 回	映画 第 2 幕第 1 幕～4 場の考察	第 28 回	第 2 回卒論テーマ経過発表（2）
第 14 回	映画 第 2 幕第 5 幕～7 場の考察	第 29 回	第 2 回卒論テーマ経過発表（3）
第 15 回	春期の総まとめ	第 30 回	総まとめ

*授業の内容、進度は、ゼミ生の人数等によって若干変更されることがある。

到達目標

英語という言語を階級の側面から考察して、英語学の基礎的な考察の仕方を身につけることができる。

履修上の注意

この演習は、英語が苦手な方でも受講できるように配慮する。テキスト、プリント等はほとんど日本語で書かれたものを使用する。言語や階級に興味がある方ならば受講を歓迎する。

予習・復習

毎回テキストあるいはあらかじめ配布された資料を読んで、学習する内容を理解して授業に臨み、授業後は、授業の内容をもう一度確認するとともに、適宜、授業で学習した同様の例が他にないか自分でも検討してみることを望む。

評価方法

授業内での発表（春期・秋期各一回）（40%）、レポート（春期・秋期各一回）（40%）を重視し、さらに学習に対する姿勢（20%）も考慮に入れて、総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：『英語の階級：執事は「上流の英語」を話すのか？』
- ・著者名：新井潤美
- ・出版社名：講談社
- ・出版年（ISBN）：2022年（9784065277072）

その他、専門的な知見を深めるために、適宜ハンドアウトを配布し、参考書を紹介する。
著作権保護のため、各自『マイ・フェア・レディ』のDVD等を購入のこと。

授業概要

この授業は、主に日本古典文学で卒業論文を執筆する学生を対象として指導する。平安時代の文学史上でもっとも有名な人物の一人である清少納言の作品を扱う。具体的な作品を読みながら、先行研究の調査、口頭発表・論文執筆の方法など、卒業論文作成のために必要な技術を身につけよう。

春学期は『枕草子』の著名な章段を取り上げて輪読するとともに、その章段についての論文を読む。論文を読む際には「何を主張しているか」と同じくらい、「どんな手続きを踏んでいるか」に注意すること。秋学期は『清少納言集』を取り上げて口頭発表してもらおう。『枕草子』に描かれている清少納言とは異なる一面を読み取ってほしい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	撰関期文化と清少納言について	第 17 回	歌集・『清少納言集』について
第 3 回	論文の読み方について	第 18 回	新編国歌大観の使い方について
第 4 回	初段「春はあけぼの」を読む	第 19 回	教員による発表見本
第 5 回	論文を読む①	第 20 回	卒業論文構想の相談①
第 6 回	八七段「雪山」を読む	第 21 回	卒業論文構想の相談②
第 7 回	論文を読む②	第 22 回	学生発表①
第 8 回	先行研究の調べ方・レポートについて	第 23 回	学生発表②
第 9 回	九八段「中納言まみりたまひて」を読む	第 24 回	学生発表③
第 10 回	論文を読む③	第 25 回	学生発表④
第 11 回	二二段「清涼殿の丑寅の隅の」を読む	第 26 回	学生発表⑤
第 12 回	論文を読む④	第 27 回	学生発表⑥
第 13 回	跋文を読む	第 28 回	学生発表⑦
第 14 回	論文を読む⑤	第 29 回	学生発表⑧
第 15 回	レポートの講評	第 30 回	まとめ

到達目標

- ①清少納言の作品、ひいては王朝文学について理解する。
- ②論文を読み、その要点を把握する技術を身につける。
- ③自分の考えをまとめ、他人に向けて発表する技術を身につける。

履修上の注意

基本事項については、授業中に一から説明する予定だが、古典文学についての基礎知識を身につけていることが望ましい。「日本文学史概論(古典)」を履修していると理解しやすい。事情がない限り欠席しない、何らかの事情がある場合は極力事前に報告すること。

予習・復習

『枕草子』各章段や論文については一週間前にプリントを配布するので、事前に目を通すこと。とくに論文については要点をまとめるプリントを配布し、記入してもらおう。論文は難解であるため、授業後に要点を復習することを強く推奨する。

評価方法

授業への積極性(20%)、レポート(40%)、発表内容(40%)で判断する。

テキスト

適宜プリントを配布する。 やや値段が高いため強制はしないが、土方洋一『枕草子つづれ織り 清少納言、奮闘す』(花鳥社、2022年1月)は優れた概説書なので、講読することを推奨する。

授業概要

近現代文学の名作を読み、作品に対する研究・批評の方法を身につけるとともに、作品レポートの執筆を通して卒業論文作成のための基礎固めを行う。作品を読み解きつつ、そこに織り込まれた時代社会に対する認識を深めながら、それがあくまでも作家の個性を通して作中に現れているメカニズムを把握する。それとともに、作品に込められた哲学・思想的文脈も捉えていきたい。春期は主に明治・大正期の作品を読んでいき、秋期は昭和期の作品と長編作品を一編読んでいく予定である。

授業計画

第 1 回	ガイダンス1 作品研究の方法	第 16 回	ガイダンス2 作家と作品の関係
第 2 回	森鷗外『阿部一族』を読む①	第 17 回	夏目漱石『草枕』を読む①
第 3 回	森鷗外『阿部一族』を読む②	第 18 回	夏目漱石『草枕』を読む②
第 4 回	森鷗外『阿部一族』を読む③	第 19 回	夏目漱石『草枕』を読む③
第 5 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む①	第 20 回	夏目漱石『草枕』を読む④
第 6 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む②	第 21 回	夏目漱石『草枕』を読む⑤
第 7 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む③	第 22 回	夏目漱石『草枕』を読む⑥
第 8 回	樋口一葉『たけくらべ』を読む④	第 23 回	夏目漱石『草枕』を読む⑦
第 9 回	横光利一『機械』を読む①	第 24 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む①
第 10 回	横光利一『機械』を読む②	第 25 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む②
第 11 回	横光利一『機械』を読む③	第 26 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む③
第 12 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む①	第 27 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む④
第 13 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む②	第 28 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む⑤
第 14 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む③	第 29 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む⑥
第 15 回	三島由紀夫『真夏の死』を読む④	第 30 回	大江健三郎『芽むしり仔撃ち』を読む⑦
		第 31 回	まとめ 作品レポートの提出

到達目標

- 作品を自身の眼で読み、主題や動機の在り処を捉えることができる。
- 先行研究を踏まえつつ、自身の把握を明確にすることができる。
- 第三者を説得する論理性のある文章を書くことができる。

履修上の注意

この授業は近代文学ゼミに所属する学生に向けて開かれる授業である。基本的に日本近代文学を対象として卒業論文を執筆予定の学生が受講されたい。

予習・復習

- 発表担当者は必ず当該授業までにレジュメを準備し、つつがなく発表を行う。
- 発表者以外の出席者も必ず作品を読み、発表者に質疑ができるように準備しておく。
- 授業後は内容を見直し、作品への把握を深めつつ、レポート作成へつなげるようにする。

評価方法

期末レポート（40%）と作品の発表レジュメ（40%）、及び授業参加態度（20%）により評価する。

テキスト

前期のテキストは教員が配布する。後期中編作品のテキストは学生が各自で文庫本を用意する。

- 教科書名：
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年（ISBN）：

授業概要

本ゼミでは「教育とは〇〇であるべき」「教員とは××であるべき」といったような「規範としての教育」ではなく、現実としての教育はどのなっているのか（なっていたのか）といった「事実としての教育」を分析するための方法を指導する。そのために、春期では、教育についての調査方法について、ゼミ生の興味関心から演習形式で指導する。秋期には、卒業論文執筆に向けての指導・発表を行うことによって、4年時の教育実習と卒業論文執筆に備えるための指導を行う。

なお、ゼミでは、教職を目指す学生のために、教員採用試験問題の研究する時間を毎時設けて、教員採用試験に向けた指導を行う。この採用試験の演習を通じて、採用試験問題の背景にある教育的事実を学んで行く。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（春期の進め方）	第 16 回	オリエンテーション（秋期の進め方）
第 2 回	教育に関する問題関心	第 17 回	卒業論文の書き方：卒業論文とは何か
第 3 回	文献・論文の調査方法	第 18 回	卒業論文の書き方：「問い」をたてる
第 4 回	文献資料の調査報告	第 19 回	卒業論文の書き方：先行研究の調査
第 5 回	新聞資料を調査する	第 20 回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第 6 回	新聞資料の調査報告	第 21 回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第 7 回	雑誌資料を調査する	第 22 回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第 8 回	雑誌資料の調査報告	第 23 回	卒業論文の書き方：先行研究の検討
第 9 回	インタビュー調査の方法	第 24 回	卒業論文の書き方：調査計画の作成
第 10 回	インタビュー調査をやってみる	第 25 回	卒業論文執筆計画書の発表
第 11 回	インタビュー調査報告	第 26 回	卒業論文執筆計画書の発表
第 12 回	教育に関するゼミ生の発表	第 27 回	卒業論文執筆計画書の発表
第 13 回	教育に関するゼミ生の発表	第 28 回	卒業論文執筆計画書の発表
第 14 回	教育に関するゼミ生の発表	第 29 回	卒業論文執筆計画書の発表
第 15 回	教育に関するゼミ生の発表	第 30 回	まとめ：卒業論文に向けて
		第 31 回	

到達目標

- ・教員採用試験に向けた学習を通じて、教員に必要な能力を養うことができる。
- ・「教育」という事象を実証的に分析する基礎的能力を身に付けることができる。
- ・教育について実証的に分析するための調査手法の基礎的能力を身に付けることができる。
- ・先行研究の調査方法・批判方法を身に付けることができる。
- ・卒業論文の執筆計画をたてることができる。

履修上の注意

原則的に教職課程を履修している学生、教職を目指す学生が対象としたゼミです。それ以外の学生が履修することは妨げないですが、ゼミの方針を確認したうえで履修してください。本ゼミは、4年時に教育実習に行くことを前提として、3年時から卒論の準備を行うため、早めに卒論の準備をする覚悟を持って履修してください。

なお、本ゼミでは教育に対する学生の興味関心を基に演習を進める。教育に関して、何かしらの問題意識を持ってからゼミに参加するようにしてください。授業では、学生による調査報告を多く行います。ゼミにおける発表などが多いことも了解しておいてください。

予習・復習

予習：指定した演習問題を解いてくる。指定した調査をして、調査報告を作成する。

復習：指定した演習問題の復習を行う。指摘された追加調査を行い、調査報告に対する修正を行う。

評価方法

受講態度（授業内での調査報告内容など）=60%、春期と秋期の最後に提出するレポート=40%

テキスト

- ・オリエンテーションの時間に提示する。論文等については配布する。

授業概要

<カルチュラル・スタディーズ 映像社会と現代文化の解説>

映画、ドキュメンタリー、小説、コミックやアニメーションなどに描かれる現在の諸問題を、映像イメージを読み解き、考察することで、現代文化の理解を目標とする。LGBTQ、児童虐待、モンスター、怪獣、ホラー映画、少年犯罪、多重人格、身体障害、テロリズム、ファッション、ディズニーランド、アニメーション、オタクなど、現代社会を表象する様々なトピックを分析し、文化の深層に迫ることができるように指導する。

授業計画

第1回	ゼミの方針について 自己紹介	第16回	ジブリ映画論(1)『千と千尋の神隠し』
第2回	ゾンビ映画論 ジョージ・A・ロメロ論	第17回	ジブリ映画論(2)
第3回	『天気の子』と現代日本	第18回	『エヴァンゲリオン』と苦悩の若者たち
第4回	『鬼滅の刃』とヒットの要因	第19回	新海誠論—アニメ文化のゆくえ
第5回	クトゥルフ神話の文化史	第20回	日本の古典的怪談文化
第6回	H・P・ラヴクラフト論	第21回	『リング』とJホラーの文化論
第7回	文学・映画における恐竜	第22回	日本における古典的妖怪文化
第8回	キングコングと猿の文化史	第23回	『妖怪ウォッチ』と現代日本
第9回	映画における原子力発電所	第24回	同性愛映画の文化論
第10回	ボーイズラブの文化論	第25回	オタク文化の進化論
第11回	トランプ時代の映画論	第26回	ライトノベル文化論
第12回	ゴジラシリーズと昭和/平成の時代文化	第27回	『ジョーカー』とアメコミの変貌
第13回	『シン・ゴジラ』とゴジラの変貌	第28回	同時多発テロの映画的側面
第14回	怪獣文化論	第29回	クエンティン・タランティーノの映画論
第15回	日本アニメの歴史	第30回	卒業論文について

到達目標

- ・学生が現代に溢れる表象を読み解き、文化的深層に迫ることができる。
- ・学生が現代思想を把握することで、映画、ドキュメンタリー、小説、アニメーションなどに描かれる諸問題を考察し、現代文化を理解できる。

履修上の注意

楽しい授業にしてゆきたいので、積極的な発言や発表などの参加を望みたい。資料を多く配布するのでファイルを持参のこと。

予習・復習

配布した資料は事前に予習として必ず読み、授業後に再度読み直すこと。

評価方法

学期末レポート(60%)、提出物および授業中の発表や発言(40%)などの総合評価。

テキスト

- ・教科書名：『ゾンビの帝国: アナトミー・オブ・ザ・デッド』
- ・著者名：西山智則
- ・出版社名：小鳥遊書房
- ・出版年(ISBN)：2019年(978-4909812124)

授業概要

本演習は、英語学もしくは言語学に興味のある学生を対象とし、その分野で卒業論文を書くための基礎力を養うことを目的とする。春学期の前半は言語学の前提知識と人間言語の特徴について講義する。後半以降は『ベーシック生成文法』（岸本秀樹, 2009, ひつじ書房）を講読しながら生成文法統語論の知識を身につけていく。また、同時進行で、『ふだん使いの言語学』（川添愛, 2021, 新潮社）を講読しながら、そこから興味のあるトピックを見つけ、そのトピックについての研究を進めていく。研究内容をもとに論文（レポート）が作成できるよう、論文の書き方についての指導も行っていく。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	研究発表 ①
第 2 回	科学としての言語学	第 17 回	『ベーシック生成文法』第 6 章
第 3 回	言語データの読み方・書き方	第 18 回	『ベーシック生成文法』第 7 章 (1)
第 4 回	生物のコミュニケーションと人間言語	第 19 回	『ベーシック生成文法』第 7 章 (2)
第 5 回	母語の知識と母語獲得 1	第 20 回	『ベーシック生成文法』第 8 章
第 6 回	母語の知識と母語獲得 2	第 21 回	『ベーシック生成文法』第 9 章
第 7 回	外国語の知識と臨界期 1	第 22 回	『ベーシック生成文法』6~9 章まとめ
第 8 回	外国語の知識と臨界期 2	第 23 回	研究発表 ②
第 9 回	『ベーシック生成文法』第 1 章	第 24 回	『ベーシック生成文法』第 10 章 (1)
第 10 回	『ベーシック生成文法』第 2 章	第 25 回	『ベーシック生成文法』第 10 章 (2)
第 11 回	『ベーシック生成文法』第 3 章	第 26 回	『ベーシック生成文法』第 11 章 (1)
第 12 回	『ベーシック生成文法』第 4 章	第 27 回	『ベーシック生成文法』第 11 章 (2)
第 13 回	『ベーシック生成文法』第 5 章 (1)	第 28 回	『ベーシック生成文法』第 12 章
第 14 回	『ベーシック生成文法』第 5 章 (2)	第 29 回	『ベーシック生成文法』第 13 章
第 15 回	春期まとめ 筆記試験	第 30 回	秋期まとめ

※ 講読のテキストは受講者の興味や状況に応じて変更する。

到達目標

- ・人間言語についての理解を深める。
- ・生成文法統語論の基礎知識を身につけ、英語と日本語の基本的な文、受動態の文、コントロール構文、主語線り上げ構文、非能格/非対格自動詞構文などの統語構造が描けるようになる。
- ・「ことば」に関する研究を行い、論文（レポート）を作成する。

履修上の注意

英語学（概論）と英語学（各論）を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。統語論は論理的・科学的な思考方法が必要な積み上げ型の学問分野であるので、少しでもわからないことが出てくるとそれ以降の授業についていくのが難しくなる。家で復習をしっかりと行い、わからないことがあれば授業で積極的に質問し、わからないことをそのままにしないようにすること。

予習・復習

- ・予習：テキストの次回の学習範囲をよく読み、わからなかったことや疑問点をまとめておく。また章末にある「考えてみよう」の設問に対して、自分なりの答えをまとめておく。
- ・復習：テキストの該当箇所をもう一度読みながら、授業で習った統語構造が自分で描けるようによく復習しておく。授業でわからなかったところは次回の授業までにクリアにしておくか、疑問点をよく整理しておく。

評価方法

春期末試験(30%)、年度末レポート(30%)、授業内発表や授業態度 (40%)から総合的に評価する。

テキスト

初回のオリエンテーションで指示する。

授業概要

本演習は、主として日本の近現代史（幕末・明治維新时期～現代）の分野から卒業論文のテーマを設定しようとしている学生を対象とする。夏休みに入るまでに、おおよその卒論テーマを決めてもらうことになる。

春期の授業では、論文の書き方や文献・資料（史料）の集め方などの説明を行うとともに、指定したテキスト（山内昌之・細谷雄一編『日本近現代史講義』）を使って発表と質疑応答を行いながら内容を検討していく。

秋期の授業では、各人が設定したテーマについての研究報告（先行研究や文献・史料の紹介、問題の設定など）を行う。受講生全員とのディスカッションを通じて、論文の中身を練ることに努める。

4年次における卒論作成に向けて、日本近現代史の知識を養いつつ、論文作成法を身につけられるようキメ細かく指導する。

授業計画

第 1 回	春期の進め方の説明	第 16 回	秋期の進め方の説明
第 2 回	論文の準備・作成方法について	第 17 回	卒論構想についての 1 回目研究報告①
第 3 回	文献・史料の収集について	第 18 回	卒論構想についての 1 回目研究報告②
第 4 回	『日本近現代史講義』の講読①	第 19 回	卒論構想についての 1 回目研究報告③
第 5 回	『日本近現代史講義』の講読②	第 20 回	卒論構想についての 1 回目研究報告④
第 6 回	『日本近現代史講義』の講読③	第 21 回	卒論構想についての 1 回目研究報告⑤
第 7 回	『日本近現代史講義』の講読④	第 22 回	卒論構想についての 1 回目研究報告⑥
第 8 回	『日本近現代史講義』の講読⑤	第 23 回	今後の卒論準備について
第 9 回	『日本近現代史講義』の講読⑥	第 24 回	卒論構想についての 2 回目研究報告①
第 10 回	『日本近現代史講義』の講読⑦	第 25 回	卒論構想についての 2 回目研究報告②
第 11 回	『日本近現代史講義』の講読⑧	第 26 回	卒論構想についての 2 回目研究報告③
第 12 回	『日本近現代史講義』の講読⑨	第 27 回	卒論構想についての 2 回目研究報告④
第 13 回	『日本近現代史講義』の講読⑩	第 28 回	卒論構想についての 2 回目研究報告⑤
第 14 回	各自の設定テーマの報告	第 29 回	卒論構想についての 2 回目研究報告⑥
第 15 回	春期の総括	第 30 回	秋期の総括

到達目標

- ・ 卒論で書くテーマをしぼり、問題を設定することができる。
- ・ 卒論テーマに関連する文献や資料（史料）を収集することができる。
- ・ 文献や史料を読み、内容を理解し整理することができる。

履修上の注意

- (1) 日本史、西洋史、東洋史、思想史関係の授業科目を積極的に受講すること。
- (2) 演習は学生主体で行われるものなので、全出席することが前提である。無断欠席は認めない。

予習・復習

- (1) テキストは毎回必ず各自事前に目を通しておく。
- (2) 発表に際しては、レジュメを作成する。
- (3) 授業で取り上げたテキストの箇所を読み返して、内容の理解を深める。
- (4) 授業の際に自分の発表に対して提起された教員や他の受講生からの意見を参考にしながら、卒論の構想を練り直す。

評価方法

授業に対する姿勢（発表準備や質疑応答への参加）80%、レポート 20%

テキスト

教科書名：日本近現代史講義
 著者名：山内昌之・細谷雄一編
 出版社名：中公新書
 出版年 (ISBN)：2019年 (978-4-12-102554-8)

授業概要

本演習では4年次の卒業論文に向けた準備をする。従って、特定の言語資料（新聞や漫画）を見定め、分析し、調べ物をする事、それを発表資料にまとめ、口頭発表をすることといった、言語研究の基礎を身につけた上で、卒業論文の執筆の手掛かりにすることを目標とする。授業の形態としては、最初に講師が分析の仕方などを詳しく示し、それに倣って準備期間を経て各自で発表するというものになる。

言語資料は古代から現代まで様々あるが、本演習では現代の新聞（文章語）および漫画（口頭語など）における書かれた言葉を資料とする。これらは国会図書館にも収められており、学術的に利用できる。

授業計画

第 1 回	授業の進め方の説明と資料の相談	第 16 回	卒論で扱う作品の分析の発表（1）
第 2 回	文体の概説①	第 17 回	卒論で扱う作品の分析の発表（2）
第 3 回	文体の概説②	第 18 回	卒論で扱う作品の分析の発表（3）
第 4 回	漫画や新聞の分析の発表（1）	第 19 回	卒論で扱う作品の分析の発表（4）
第 5 回	漫画や新聞の分析の発表（2）	第 20 回	卒論で扱う作品の分析の発表（5）
第 6 回	漫画や新聞の分析の発表（3）	第 21 回	卒論で扱う作品の分析の発表（6）
第 7 回	漫画や新聞の分析の発表（4）	第 22 回	卒論で扱う作品の分析の発表（7）
第 8 回	漫画や新聞の分析の発表（5）	第 23 回	卒論で扱う作品の分析の発表（8）
第 9 回	漫画や新聞の分析の発表（6）	第 24 回	卒論で扱う作品の分析の発表（9）
第 10 回	漫画や新聞の分析の発表（7）	第 25 回	卒論で扱う作品の分析の発表（10）
第 11 回	漫画や新聞の分析の発表（8）	第 26 回	卒論で扱う作品の分析の発表（11）
第 12 回	漫画や新聞の分析の発表（9）	第 27 回	卒論で扱う作品の分析の発表（12）
第 13 回	漫画や新聞の分析の発表（10）	第 28 回	卒論で扱う作品の分析の発表（13）
第 14 回	漫画や新聞の分析の発表（11）	第 29 回	卒論で扱う作品の分析の発表（14）
第 15 回	漫画や新聞の分析の発表（12）	第 30 回	卒論で扱う作品の分析の発表（15）

到達目標

- 書かれた言語資料を集めて分析することができる。
- 自分自身で日本語学の分野の発表の基礎的な準備をすることができる。
- 文章語と口頭語を対照しながら、その言語資料の文体の特性を複数見つけ出して論じることができる。

履修上の注意

「日本語の文法、日本語学（概論）、日本語学（各論）、日本語コミュニケーション、言語学、社会言語学」などの日本語学・言語学系の科目のうち少なくとも一部を既に履修しているか、並行して履修してもらいたい。特に「日本語の文法」は必須なので、未修なら並行履修してほしい。また、エクセルを使うので、苦手な人はあらかじめ勉強しておくか、並行して慣れて行く必要がある。

予習・復習

授業は、各自が発表準備を間に合わせることを前提としている。各自発表に間に合うように努力されたい。発表の順番などは臨機応変に決める。受講者の人数次第で講義の回数や発表の回数を調整する。

評価方法

発表（80パーセント）、その他受講態度等（20パーセント）で評価する。

テキスト

- 教科書は使用しない。
- 資料については以下のとおり。新聞や漫画は講師が分析済みの資料を配付することも、受講者が用意することもある。新聞は「朝日新聞」の記事をエクセルに書き起こし、分析してある。漫画は複数の作品をエクセルに書き起こし、分析してある。各自が卒業論文に使用するための漫画等の作品については、3年生の春休みの終わりまでに分析を終える（漫画なら単行本1巻分）。受講者間で作品や作者が異なるようにしたい。